

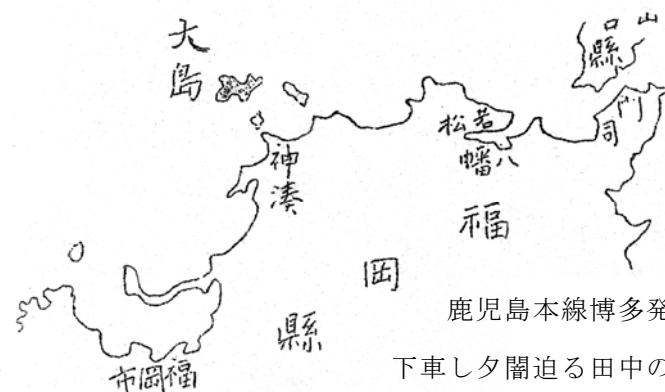
貝類
研究

夢蛤

第 34 號

恭賀	新年		
主張	芽生えを育成せむ	7
研究	館山湾に於けるイタヤガイの大發生と		
	その生態並びに生物相	瀧 庸	2
	チクゴシジミの変異型	岡本正豊	7
	ムカデガヒの一生	黒田徳米	8
	ウミウシ類の採集と標本製作法	堀越増興	10
	蝸牛雜感	黒田徳米	15
	貝類異型の研究其 20	吉良啓明	18
傳記	梅村魁氏小傳	天野景從	21
新刊紹介			22
雜錄	フボガヒは2種である	黒田徳米	23
	長者貝命名由來記	中上川小六郎	26
	筑前大島採集記	岡本正豊	30
隨筆	新長者貝優姿	天狗庵宗匠	33
談話室			35
貝界消息			38
.....			
附録	二枚貝屬類圖考	波部忠重	
.....			
編輯だまり			44

1949・7月



筑前大島採集記

岡本 正豊

10月16日(1948年)15時20分、

鹿児島本線博多発列車で高橋五郎氏と出発、東郷駅で

下車し夕闇迫る田中の道をバスに依らず歩いて神湊(コウ

ミナト)に向う。十五夜の月皓々と輝くを仰ぎ、電産ストの為暗黒となった神湊町着、連絡依頼して置いたのだが神湊小学校の宿直室はがらんで人気なく、さりとて英彦山のお宮とちがってだまって泊るわけにも行かず、已むを得ず附近に居住して居られる同校教官永島憲一氏を訪ね、来訪の意を告げたところ同氏宅に泊る事を勧めらるゝに至り、我々も同氏の好意に感謝し、ルンペン生活とはおよそ縁遠い暖いふとんにうづくまってぐっすり休んだ。

明くれば10月17日、永島氏宅で朝食まで戴き、全く縁無き者を斯く迄歓待せられた事に深謝して同氏宅を辞し、勇躍海岸へ向う。海岸には今夏彼のイタヤガイが大漁の際採取せられた殻が山積せられていたが、夥多のイタヤガイに混って大きなヒオウギやアケガイの死殻のあるのは愉快だった。大島に渡る港に近づくに従って、海岸に打上げた微小貝は、共に打上げられた石炭の小粒と共に段々其の数を増して来た。切符売場に道具を預け、海岸の打上げ貝を採集する。キセワタ、カセンチドリ、ハナヅトガイ、キュウシュウベッコウタマガイ、ツメナリミヤコドリ、*Plesiothyreus* sp.、シナヤカスエモノガイ、ウスカタビラ、シズクガイ、チヨノハナガイ、カバザクラ等軽いものが打上げられていた。

幾多の未練を残して同地を切上げ港に行く。“30トンの船ですから少々時化ても出ます”と聞いたが余り頼りになる程大きな船ではない。併しこれでも渡船の転覆したことは未だ嘗てないそうだ。11時、汽笛と共に神湊を離れる。勝島の陰から出ると愈々玄界の荒波を西から受けて、船は10度余り右に傾斜し、波のしぶきは盛に舷を叩いたが、約40分して大島の港にはいった。昼食を炊く場所を求めて中津宮に行ってみると、折悪しくお祭りので神樂があがっており、宝くじまであるという賑かき、飯炊く場所もあらばこそ、やむなく飯盒と採集袋とをぶら下げて裏の山林へ入り込

んだ。木は主として落葉樹で、下葉やかづらの葉などについているツクシマイマイを数個、キュウシュウシロマイマイを一個並にコベソマイマイ死殻を採集した。此処のツクシマイマイには、福岡附近では滅多に見られない臍孔の色帯だけを欠く 1230 型のものが二三あったことは面白いと思う。又灌木の枝の 1 米位の高さのところウスカワマイマイが、クロマドボタルの幼虫に襲われているのを目撃した。腹が減っては採集が出来ないので炊事をする心算で宿泊予定地の小学校へ行く、此処の学校もお祭りの関係か藻抜きのから、あがり



り込んで炊事場の七輪を拝借し悠々と昼食、済んで大島の北海岸岩瀬に向う。

岩瀬海岸付近の高地にある沖ノ島遥拝所から遙か北方に淡く霞む沖ノ島の影を眺め、目ぼしいすぐ裏にある山中にはいる。落葉の中で甚だ僅少ではあるがウラジロベッコウ、タカハシベッコウ (*Nipponochlamys takahashii* Kuroda et Habe (MS.))、ヒメベッコウ (?)、ヤクシマシタラ等の微小種

と、フリーデルマイマイ、ツクシマイマイ、ミジシタギセル等を採集した。海岸に下る。

丸い岩が多く、それ等にセルプラやウメボシイソギンチャク等が附着しており、イソヒナ、クボガイ、クマノコガイ、イシダタミ、アオガイ、スソカケガイ等汀線附近の貝が多数居た。尚同地で産卵中と思しき、軟体部の殻より大きな貝を採集し、キセワタだと思っていた所、後に肉を抜いて見た所タテジワミドリガイであった。その外には大なる収穫もなく南海岸の宮崎方面に向う。海岸には近海で採取されたと思われるイタヤガイやツキガイ、アサリ等の殻が四散していた。東側堤防先端の岩礁に行ってみる、岩の凹みの水溜りにはケハダヒザラガイ、スソカケガイ、アマガイ、クロスジムシロ、シロカラマツ、ムラサキインコ、セミアサリ等、海中にはオオコシダカガンガラ、イソバショウ等が附着していたので若干採集した。海中の褐藻をとり附着しているハリハマツボ、チャツボ等の微小種も採集した。西側の渡船のつく棧橋代わりになっている堤防に行ってみる、此方はあまりよい条件とは言い難く、僅かに採集した褐藻を、子供の持っていた洗面器を借り受けてチャブチャブやって微小貝を一網打尽し、ノミニナ、ハナチグサ、イワカワチグサ、クダマキマツムシ、イボフトコロ、ハリマツボ、チャツボ、等を得たに止まった。マガキと共に岩に附いていたケガキをとろうと努力し

たが思うように行かず、やっとの事で二三採集し、うすぐらくなつたので採集を断念し、再び学校を訪れた。大島では電灯は自家発電をやっており、電産ストも何処吹く風、福岡市内で今尚ランプ生活の残島と比べると甚だ贅沢である。宿直室には其の電灯がついてゐるのに相変わらず人気なく、新聞配達の子供からすぐ前の長屋に校長の仮住いのある事を聞き、夕食後校長宅を訪ねた所、小学校長は留守で、丁度中学校長（小学校長と同居）と大島の宮総代とが我々を招じ入れ談合しばし、遂に此処でも中学校長の室に宿泊することになった。此の宮総代某氏、昼間我々が中津宮で飯盒と袋をぶら下げて山中にはいって行く様子を見ていたものと見え、我々をルンペンと思った由を語ったが、これにはいささか恐れいった。夜半小学校長が帰宅せられた。

翌 18 日早朝起床、学校で米をとぎ、中津宮の山中で食事をすまして、山中にはいり発船まで一時間余同地の陸貝を求めたが、コベソマイマイ、ヤマタニシ、ツクシマイマイの死殻を認めた外、発船時刻間際になってミゾシタギセルを数個採集、此んなに乾燥していなかったらと未練をのこして港へ急ぐ、風が強く 8 時港を離れるや否や忽ち東からの大波にもまれ、右舷は吃水線から上が 1 糶足らずとなり、東方に見える倉瀬が波に見えかくれしつつ神湊着、波が大きくて前日の夥しい打上貝もすっかり洗われて無くなり、採集できる見込みもないので、小憩の後、鈎川々口のカワザンショウガイ類を採集して夕刻帰福した。

.....

以上で私共の大島方面調査の概要の報告を終わります。意外に時間の余裕がなく、大潮の此の日を選んだに拘らず十分な採集が出来ませんでした。

併し、筑前の大島は九州本島に近い関係から Fauna にこれといった特徴が見られませんでした。尚後日の参考の為に交通について一寸附記します。

鹿児島本線赤間駅・神湊町間 西日本鉄道バス 約 40 分 25 円 一日 6 往復

神湊・大島間 大島振興会汽船 約 40 分 35 円

出航時刻 神湊 11 時、17 時 大島 8 時、14 時

.....

採集記は皆様に喜ばれますからどしどし送ってください。我家の裏山でも、前庭でも、浜辺でも、必ずしも遠方を望みません。